

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	王朝物語の精神史		
英文授業科目名	The Spiritual History of Heian-Monogatari		
開講年度	2005年度	開講年次	3、4年次
開講学期	5、7学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-上級講義		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	島内 景二		
居室	東1-815		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shimauch@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>平安時代に書かれた『源氏物語』や『伊勢物語』。その大昔の物語が、鎌倉時代・室町時代・江戸時代・明治時代の日本文化の創造に対して、大きな役割を果たしてきた。</p> <p>その生命力の秘密は、どこにあるのだろうか。</p> <p>日本を代表する文化人たちは、皆、『源氏物語』や『伊勢物語』などの「古典」を学び、古典を乗り越えて、自分自身の「現在=近代」を発見したのだった。</p> <p>ところが、大正時代以降は、「現代語訳」の発明によって、「古典」は永遠に古典となってしまう、現代人から遠のいてしまった。その果てに、漫画本の安易な大流行がある。</p> <p>諸君には、「生きた古典」の不滅の価値と、それを生かし続ける努力の必要性とを、是非ともわかってもらいたい。それは、文科系の人間だけの問題ではない。科学の古典を現代人がどう読むべきかに関しても、諸君は考えるヒントを獲得できるだろう。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特に、なし。</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>特に、なし。</p> <p>ただし、「文学A」「文学B」を受講しておけば、より楽しく、より深く、学習できるに違いない。</p>
--

電気通信大学 平成17年度シラバス

【教科書等】

教科書は、使用しない。プリントを配布する。

【授業内容とその進め方】

まず、『源氏物語』と『伊勢物語』の概説を行う。

引き続き、『源氏物語』や『伊勢物語』の「エッセンス」を凝縮した文章を、深く、そして楽しく分析して、鑑賞する。

また、この二つの古典に影響を受けた近代文学や現代文学についても、随時プリントを配布して紹介する。受講者は、千年間も日本人の心をトリコにしてきた王朝文学の不死鳥のような生命力に驚嘆するに違いない。

この講義全体を通して、諸君にとっては「新鮮な日本文化史」を提供したい。

『源氏物語』や『伊勢物語』などの文章は、正しく教えられれば難解でも何でもない。むしろ、今を生きる若者たちにとって最も切実なテーマが、ありありと描かれていて、迫真的である。「文法の知識」がそれほどない学生にもよく理解できるように、とことんかみくだいて平易に解説し鑑賞するので、安心してほしい。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

学期末の論述式試験の成績を最重視する。ただし、学期途中に小レポートを課す。この小レポートを未提出であれば、試験の成績からワンランク下げる。また、時々、出席を取る。

講義内容を理解しているかどうか、批判的に考えながら受講できたか、自分自身の見解を試験答案に盛り込めたか、それらを勘案して最終成績を決定する。古文の品詞分解とか、現代語に訳せとか、そういう低レベルの試験問題は出さない。文化の本質と、その理解について、問う設問にする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

四年生の出席率が、非常に悪い。就職関係でほとんど出席せずに（出席できずに）試験だけ受ける学生が例年多いが、まず単位取得は不可能に近い。そういう「行き当たりばったり」の態度を改めるためにも、日本文化のエッセンスに触れて欲しい。

【その他】